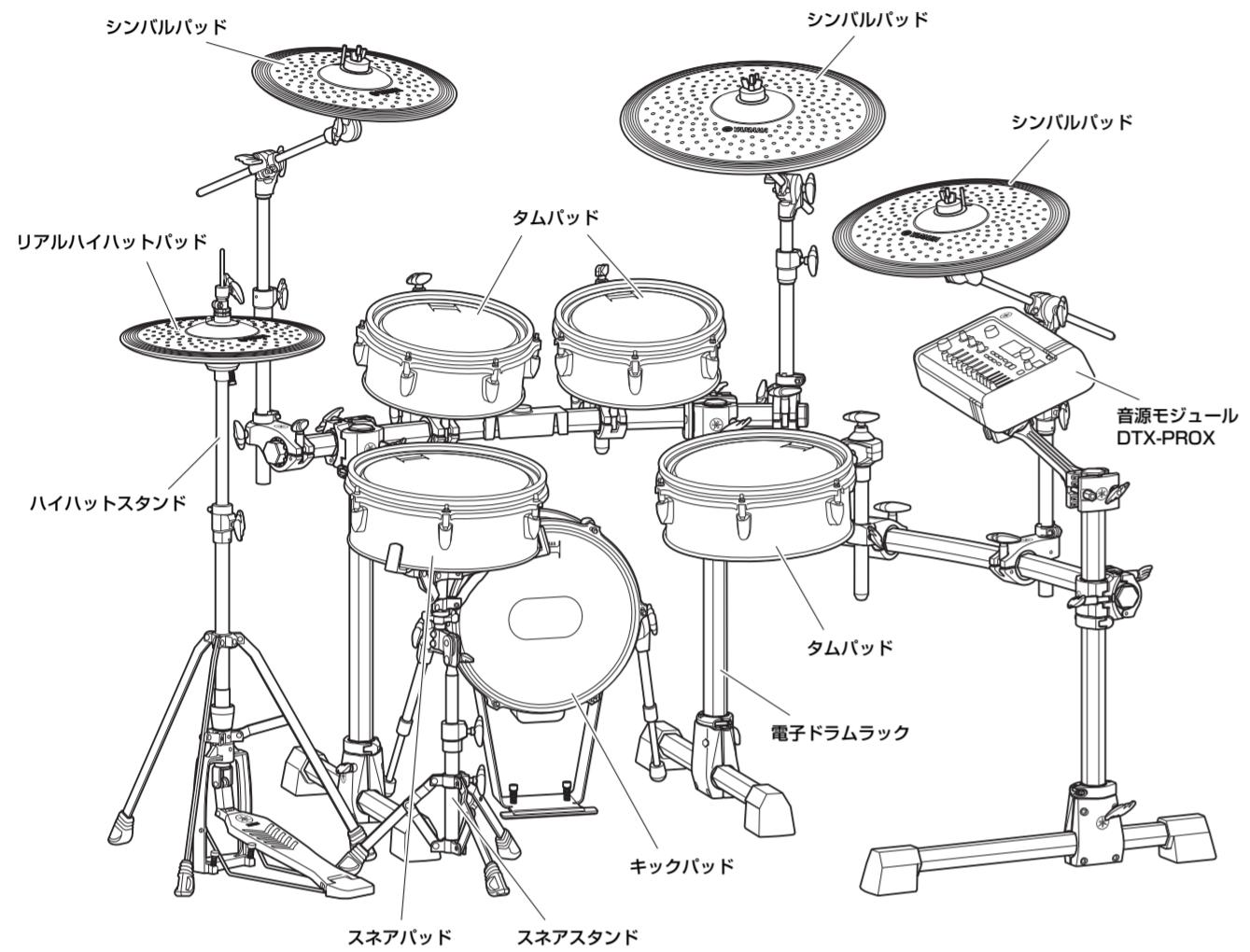


このたびは、ヤマハ電子ドラムセットDTX10K-X DTX10K-Mをお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この製品は、ご家庭やスタジオなどで演奏にお使いいただける電子ドラムセットです。正しく組み立てて、安全にお使いいただくため、本書をよくお読みになってからご使用ください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきますようお願いします。

この説明書では、DTX10K-X、DTX10K-Mの標準的な組み立て方を説明します。組み立てと配線をした後、音源モジュールのトリガーセットアップを選択するまでを説明します。この組立説明書では、DTX10K-Xのイラストで説明していますが、使い方はDTX10K-Mも同じです。

### 標準的な組み立て例



### 重要

- この説明書では、組み立てられた状態の電子ドラムラックRS10-HXRに対してパッドセットと音源モジュールを取り付ける方法を説明しています。あらかじめ電子ドラムラックRS10-HXRを組み立てた上で、この説明書をお読みください。
- 同梱されているパッド類と電子ドラムラックRS10-HXRの保証について、それぞれの取扱説明書に記載の保証書をご利用ください。

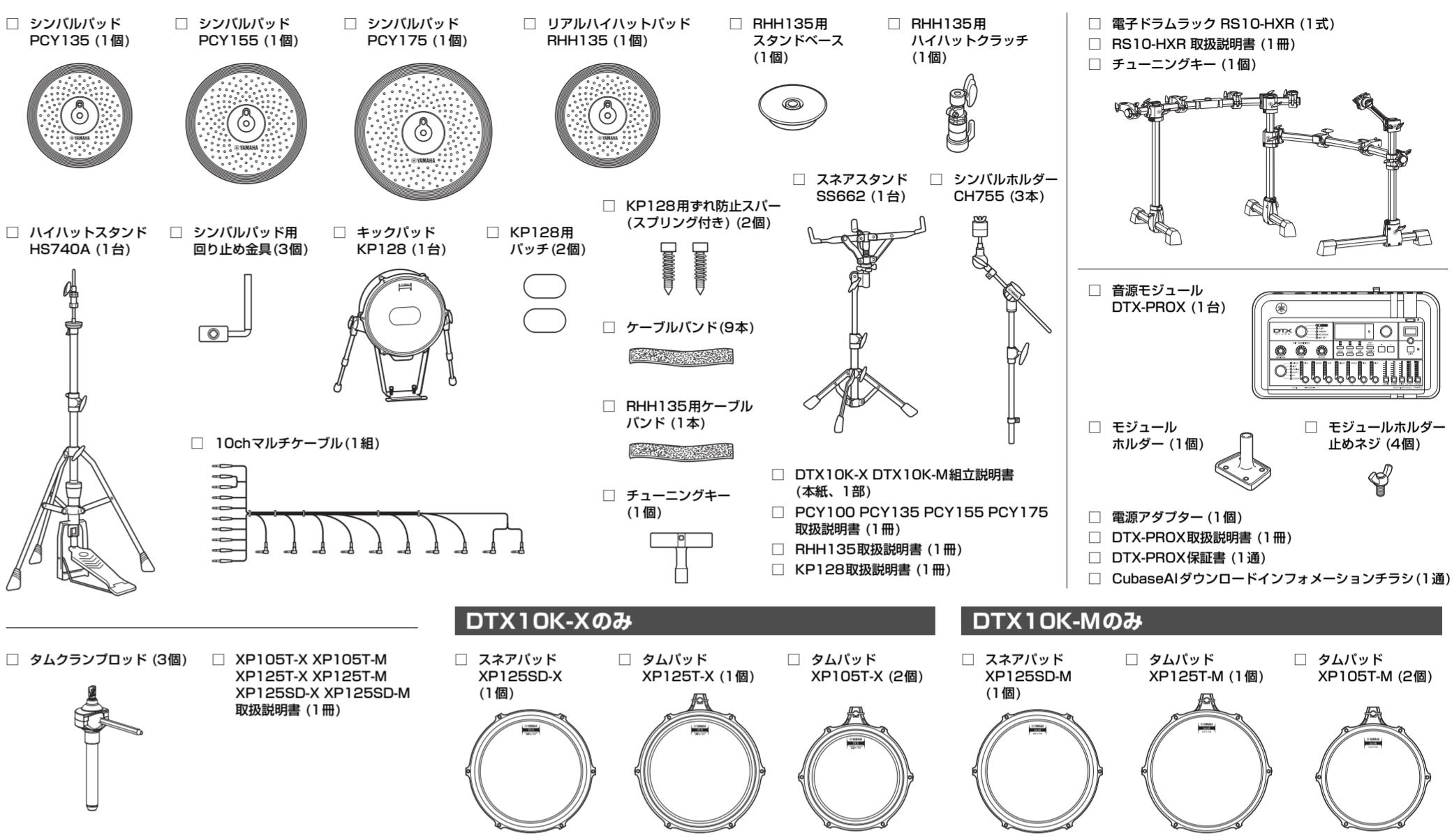
### 注記

別売のドラムマットがある場合には初めに床に敷いてください。ドラムマットが無い場合は、床に傷がつくのを防ぐためハイハットスタンドとキックパッドの下に梱包材の段ボールなどを敷いてください。

## 1 梱包箱の中身を確認します。

梱包箱を開けたら、すべての部品がそろっていることを確認してください。

### DTX10K-X、DTX10K-Mの同梱品



### DTX10K-Xのみ



### DTX10K-Mのみ



### DTX10K-X、DTX10K-M共通



## 2 電子ドラムラックRS10-HXRを組み立てます。

RS10-HXRの組み立て方については、RS10-HXRに付属の取扱説明書をご覧ください。

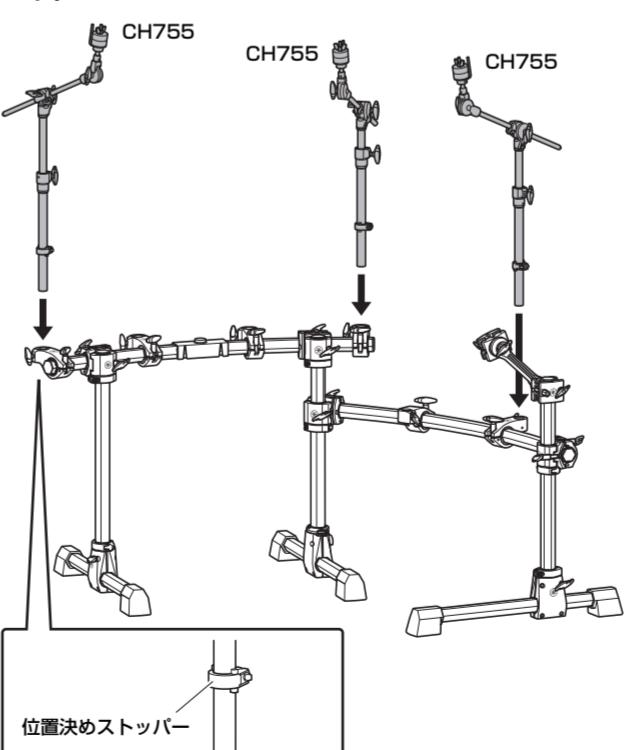
## 3 電子ドラムラックにパッド類、音源モジュールを取り付けます。

### シンバルホルダーの取り付け

- シンバルホルダーCH755 3本を、電子ドラムラックの図の位置に取り付け、締付ネジを締めてしっかりと固定します。

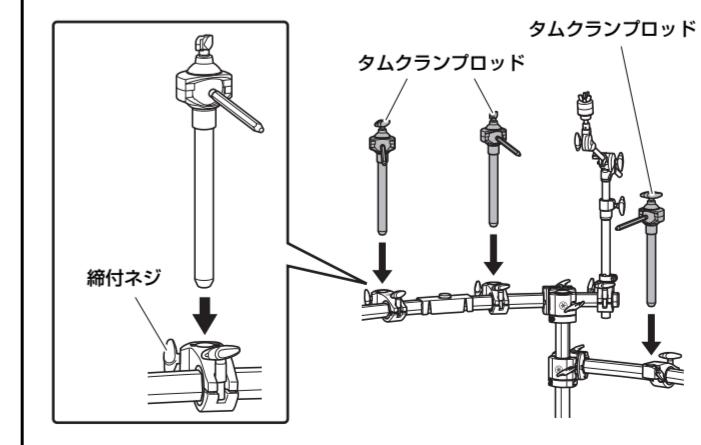
#### NOTE

必要に応じて位置決めストッパーの固定位置を変更できます。変更後はチューニングキーを使ってしっかりと固定してください。

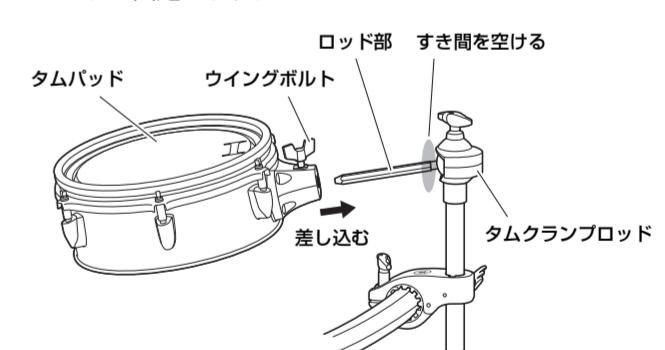


### タムパッドの取り付け

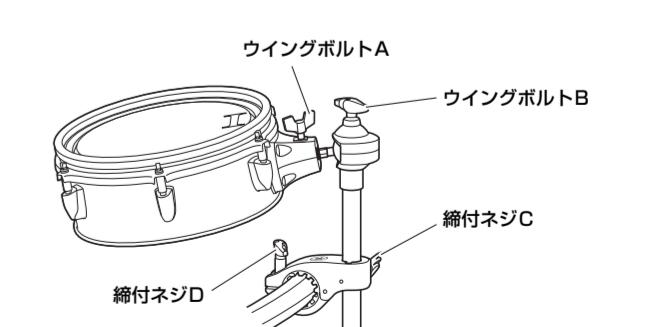
- タムクランプロッド3個を、上図のタムの位置に取り付け、締付ネジを締めてしっかりと固定します。



- ラック上のクランプロッドにタムパッドを取り付けます(3カ所)。タムパッドとタムクランプロッドの間に指一本分程度のすき間を空け、ウイングボルトを締めてしっかりと固定します。



- タムパッドの打面の高さや角度は、下図のウイングボルトA～B、締付ネジC～Dをゆるめることで調整できます。位置が決まったら必ずしっかりとウイングボルトC、締付ネジDを締めて固定してください。



- 注記** 故障や誤動作を防ぐため、演奏前にヘッドにガタつきやたるみがないよう調整してください。詳細は、XP105T-X XP105T-M XP125T-X XP125T-Mに付属の取扱説明書をご覧ください。

### 安全上のご注意 ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や損害を未然に防止するためのものです。お客様の安全や機器の保全に関する重要な内容ですので、必ずお守りください。

※ 読みになった後は、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。  
※ パッドやラックに付属の組立説明書や取扱説明書も必ずお読みください。

! 注意	
この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負ったり、財産が損害を受ける危険のおそれがある内容を示しています。	
本書の組み立て方の説明をよく読み、手順どおりに組み立ててください。また、定期的にボルトを締め直してください。この製品が破損したりお客様がけがをしたりする原因となります。	
けがをするおそれがありますので、小さいお子様が取り扱いされる際は必ず保護者が付き添ってください。	
シンバルホルダーやタムクランプロッドの先端部分はとがっています。けがの原因となりますので、取り扱いにはじゅうぶん注意してください。	
キックパッドの脚先やキックパッド/フットペダルに取り付けられているずれ防止用スパーは先端部分がとがっています。けがの原因となりますので、取り扱いにはじゅうぶん注意してください。	
この製品を設置される際、固定用のナット等はしっかりと締め付けてください。また、固定用ナット類をゆるめる際はゆっくりとゆるめてください。パッドが落下したり、ラック、パイプ、スタンードの部品の落下、転倒などにより、けがの原因となります。	
この製品を、不安定な場所(水平でない場所、ぐらついている台の上など)に設置しないでください。転倒、落下などにより、けがの原因となります。	
この製品を設置される際、接続ケーブルなどの引き回しにはじゅうぶん注意してください。足を掛けた転倒など、けがの原因となります。	
この製品を分解したり、改造したりしないでください。けがまたは故障の原因となります。	
ラックに腰かけたり踏み台にしないでください。転倒したり壊れたりして、けがの原因となります。	

### 記号表記について

この機器や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。

- ⚠ 「ご注意ください」という注意喚起を示します。
- 🚫 「～しないでください」という禁止を示します。
- ❗ 「必ず実行」してくださいという強制を示します。

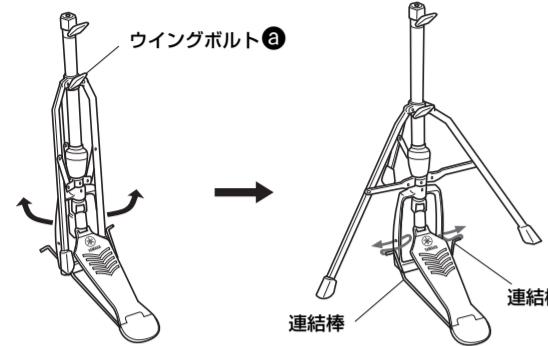
※ この取扱説明書に掲載されているイラストは、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。

※ 本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。

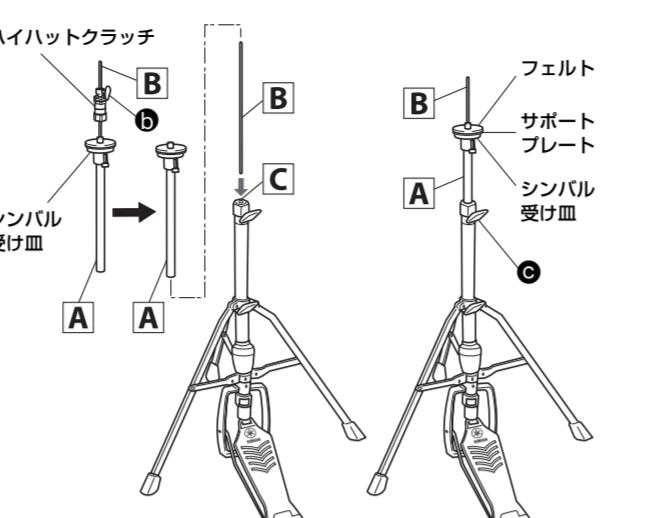
※ 本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

## ハイハットスタンドの組み立て

1. ドラムマット(別売)などが無い場合は、床に傷がつくのを防ぐため段ボールなどを敷きます。
2. ハイハットスタンドのウイングボルト(下図①)をゆるめます。
3. 下図のように三脚部を広げ、手順2でゆるめたウイングボルトを締めて固定します。
4. 下図のように連結棒をフレームの穴に差し込みます。

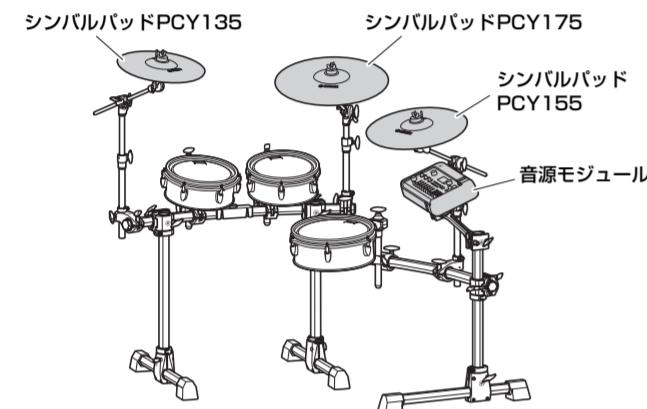


5. ハイハットクラッチのウイングボルト(右図④)をゆるめてハイハットクラッチを外します。  
※このハイハットクラッチは本書の標準的な組み立て例では使用しません。RHH135付属のハイハットクラッチを使います。
6. 上パイプ[A]からハイハットシャフト[B]を引き抜きます。
7. 手順6で引き抜いたハイハットシャフト[B]を下パイプ[C]のナットにねじ込みます。
8. 上パイプ[A]をハイハットシャフト[B]の上から差し込み、シンバル受け皿がハイハットシャフト[B]の中間となる位置でウイングボルト(右図⑤)を締めて固定します。
9. シンバル受け皿の上に載っているフェルトを外します。  
※サポートプレートは外さないでください。  
※このフェルトは本書の標準的な組み立て例では使用しません。付けたままにしておくと適切な演奏感が得られなくなりますので、必ず外してください。



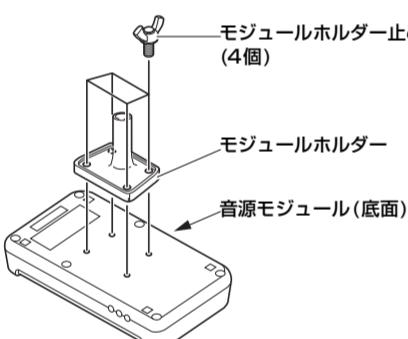
10. リアルハイハットパッドRHH135を取り付けます。  
※RHH135取扱説明書の「セッティングのしかた」をご覧ください。

## 音源モジュール/シンバルパッドの取り付け

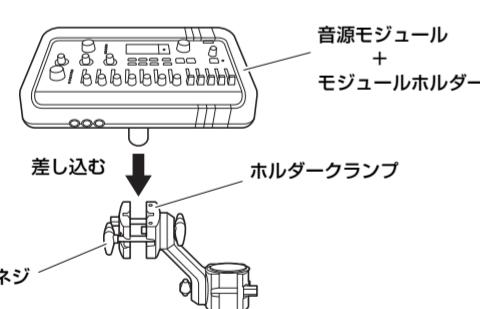


### ■ 音源モジュールの取り付け

1. 音源モジュールに付属のモジュールホルダーステー止めネジを使って、音源モジュール底面にモジュールホルダーを取り付けます。

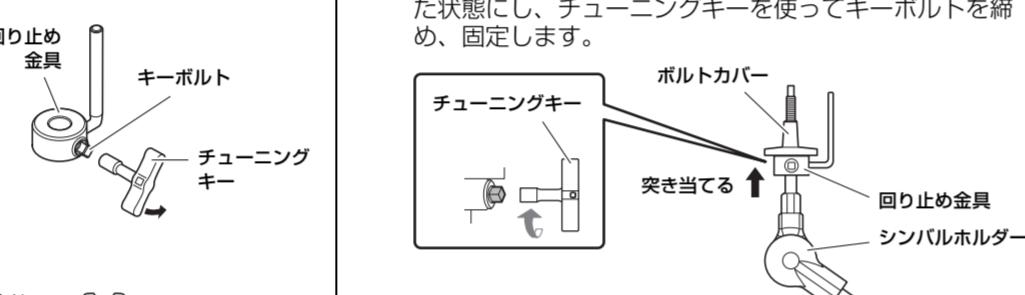


2. モジュールホルダーをホルダークランプに差し込み、締付ネジを締めて固定します。



### ■ シンバルパッドの取り付け

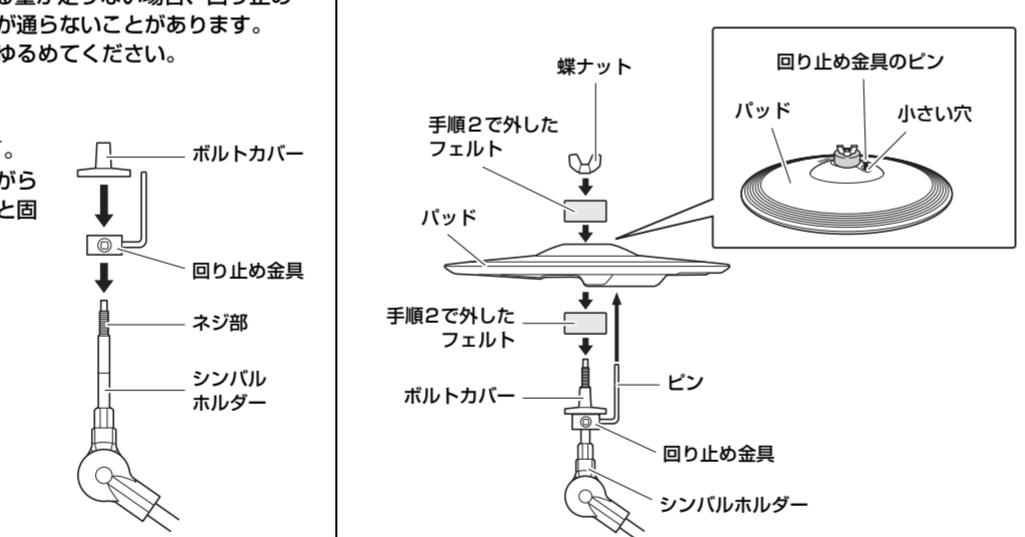
1. 回り止め金具のキーボルトを、チューニングキーを使ってゆるめます。



2. シンバルホールダーから、蝶ナット、フェルト(2個)、ボルトカバーを外します。

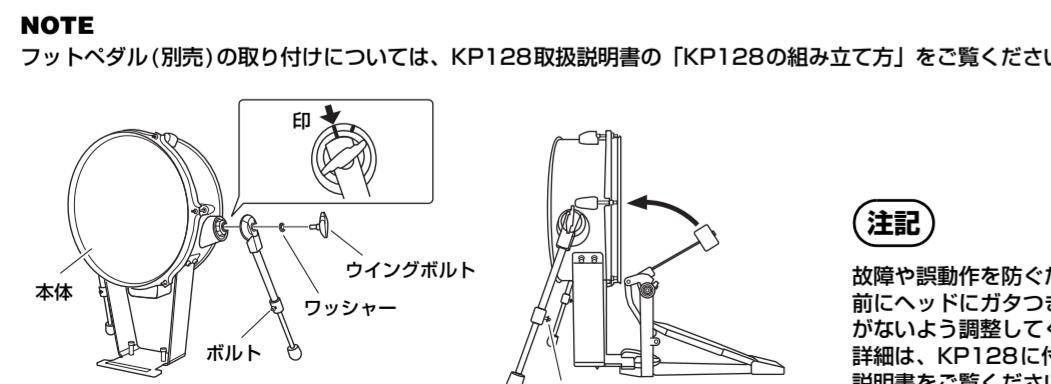


3. シンバルホールダーに回り止め金具を通しておきます。  
※手順1でキーボルトをゆるめる量が足りない場合、回り止め金具の穴にシンバルホールダーが通らないことがあります。キーボルトが外れない程度にゆるめてください。
4. ボルトカバーを取り付けます。  
※ボルトカバーは、回転させながらネジ部にねじ込み、しっかりと固定されます。
5. 蝶ナットを締めてパッドとシンバルホールダーを固定します。



## キックパッドの組み立て

1. ドラムマット(別売)などが無い場合は、床に傷がつくのを防ぐため段ボールなどを敷きます。
2. 左右の脚を本体に組付けます。  
下図のように、ボルトが手前に来る向きで、レッグとレッグ台座についている印を合わせ、ワッシャーを通してウイングボルトで固定します。



## スネアスタンドとスネアパッドの組み立て

1. スネアスタンドの脚を開き、床に置きます。
2. スネアスタンドのバスケット部を抜けスネアパッドをのせたら、バスケットを調整し、スネアが動かないように調整ノブを締めて固定します。



4 本紙おもて面の『標準的な組み立て例』を参考に、ハイハットスタンド、キックパッド、スネアスタンドを配置します。

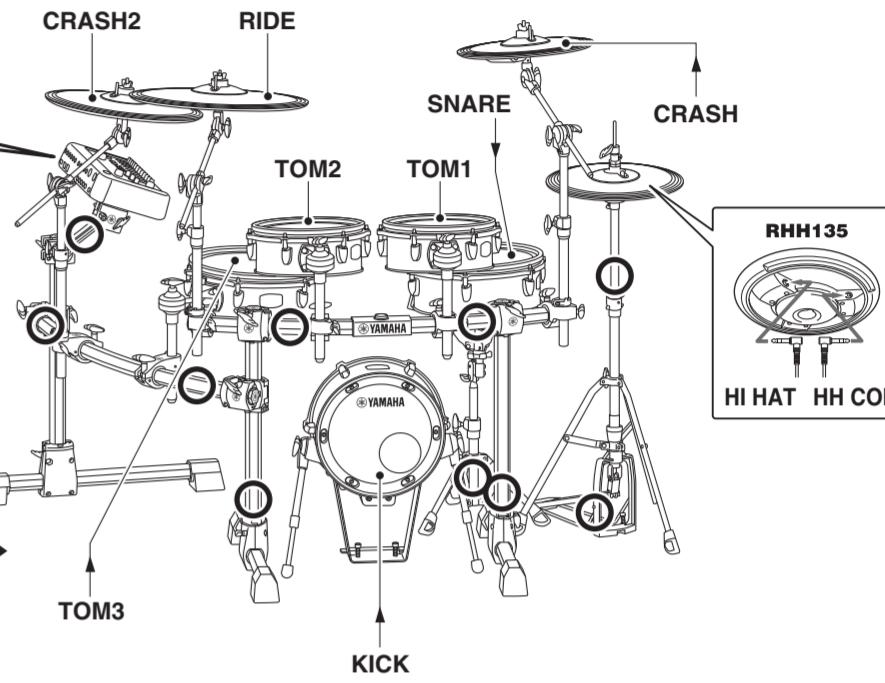
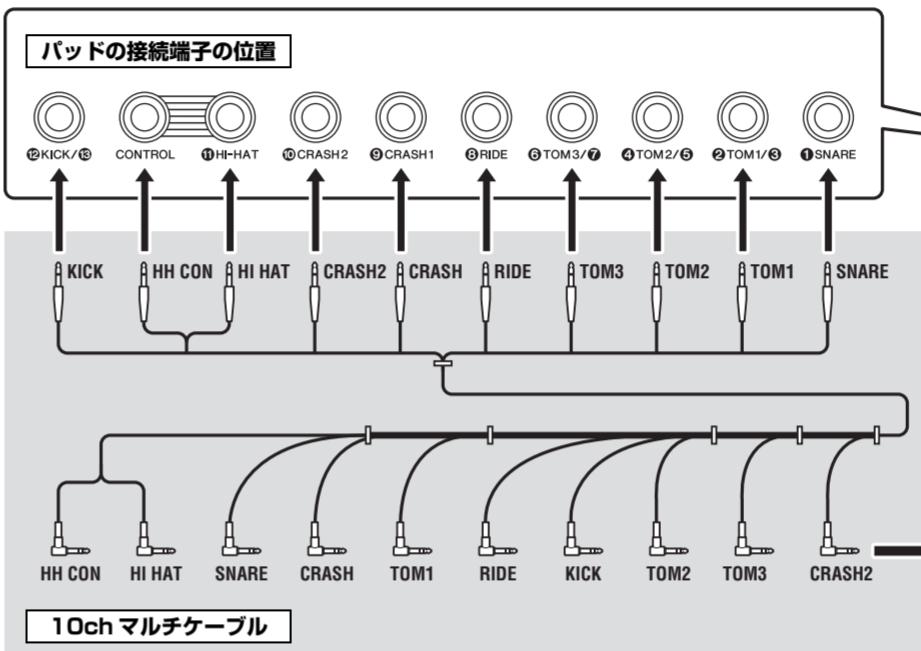
- ・別売のドラムマットがある場合は最初に床に敷いてください。ドラムマットが無い場合は、床に傷がつくのを防ぐためハイハットスタンドとキックパッドの下に梱包材の段ボールなどを敷いてください。
- ・キックパッドと当たるのを防ぐため、電子ドラムラックの支柱(中央)の高さを下げ過ぎないようにご注意ください。

## 5 パッドと音源モジュールを接続します。

パッドの出力を音源モジュールのパッド入力に接続し、配線します。

1. 音源モジュールのリアパネルのトリガー入力端子に、10chマルチケーブルのストレートプラグを差し込みます。  
・標準セットアップでは、各プラグのシールに印字されているパッド名の記号に合わせて10chマルチケーブルを接続します。
2. 10chマルチケーブルのL字プラグを各パッドの端子に差し込みます。
3. スネアパッド、タムパッド、シンバルパッド、ハイハットパッドは、ケーブルが抜け落ちないようにコードフックに巻きつけて固定します。

- 注記** コードフックに巻きつける際、ケーブルを極端に折り曲げないでください。断線の原因となります。



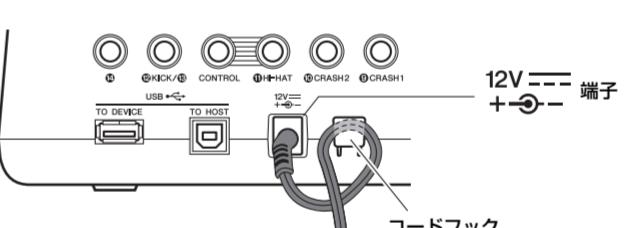
4. ケーブルバンドを使い、右図の○位置を参考にケーブルをラックに沿わせて固定します。

**注記** 音源モジュールに近いほうからケーブルバンドを止めると、綺麗にセッティングできます。

## 6 音源モジュールに電源アダプターを接続します。

1. 電源アダプターのDCプラグを12V端子に接続します。電源コードが抜け落ちないようにコードフックに巻きつけて固定します。

**△ 注意** コードフックに巻きつける際、電源コードを極端に折り曲げないでください。断線の原因となります。



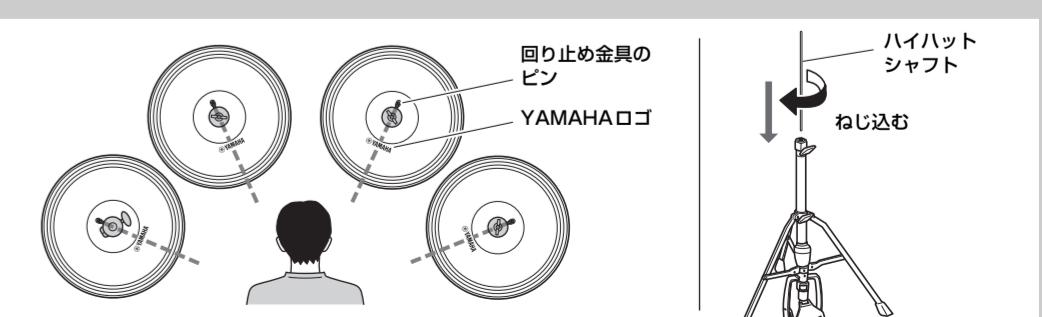
2. 電源アダプターのもう一端(電源プラグ)を家庭用(AC100V)コンセントに接続します。

- 重要** お使いの製品に合わせて、音源モジュールのDTX-PROXのトリガーセットアップで「DTX10K-X」または「DTX10K-M」を選択してください。(トリガーセットアップの選択手順については、DTX-PROX取扱説明書の「初期設定(トリガーセットアップウィザード)」をご覧ください)。
- ・キックパッドの出力(LEVEL)調整:** キックパッドKP128のレベル調整つまみで、トリガーアウトをお好みの大きさに調整してください。詳しくはKP128取扱説明書の「出力調整」をご覧ください。

お使いの製品番号の末尾が“-X”はTOSパッド関連製品、“-M”はメッシュパッド関連製品を表します。これらの製品はドラムを叩いたときの検出方式が異なるため、製品に合ったトリガーセットアップを選ばないと適切な演奏感が得られません。製品に合ったトリガーセットアップをお選びください。

## 重要

- ・YAMAHAロゴに近い位置を叩くと、快適な演奏感が得られます。自然にYAMAHAロゴ付近を叩けるよう、シンバルパッド/ハイハットパッドのYAMAHAロゴが、演奏者の位置から見て正面に見えるのが正しいセッティング位置です。右図を目安に、回り止め金具の向きを調整することで、シンバルパッドの向きが適切になります。また、ハイハットクラッチの取り付け向きを調整することで、ハイハットの向きが適切になります。
- ・使用しているうちにハイハットシャフトがゆるみ、ハイハットパッドが回転することがあります。性能が十分に出なくなることがありますので、ハイハットシャフトを定期的にねじ込み、ハイハットパッドの位置を調整し直してください。



これで組み立ては完了です！ 実際に音を出すなど、これ以降の手順については、音源モジュールの取扱説明書をご覧ください。